

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco のルータのシリアルトンネル (STUN) の設定例を紹介します。中央ルータでは、1 つのシリアル インターフェイスをフロントエンド プロセッサ (FEP) に接続します。また、リモート エンドでは、2 つのシリアル インターフェイスを備えた 1 台の Cisco ルータを 2 台の異なるコントローラに接続します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

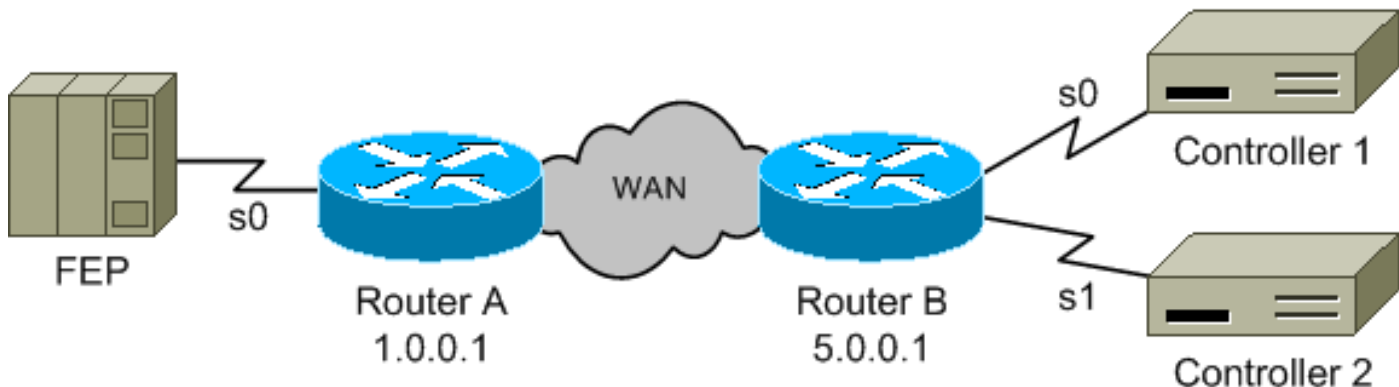
設定

この項では、このドキュメントで説明する機能の設定に必要な情報を提供します。

注このドキュメントで使用されているコマンドの詳細を調べるには、[Command Lookup Tool](#) ([登録ユーザ専用](#)) を使用してください。

ネットワーク図

この文書では、次のダイアグラムに示すネットワーク設定を使用します。



設定

このドキュメントでは、次の設定を使用します。

- [ルータ A](#)
- [ルータ B](#)

ルータ A
ルータ B

注上記の図には示されていませんが、IP ルーティングが設定され、正常に作動していることが前提とされます。

上記の図と設定には、クロックソースが示されていません。クロックソースを指定する必要があります。指定しないと、シリアルインターフェイスが起動しません。さまざまなオプションを使用できます。最も一般的なオプションとして、ルータ側で DCE ケーブルを使用して、シリアルインターフェイスでこのコマンドを追加することがあります。

```
clockrate {300-4000000}
```

接続のもう一方の端で、DTE ケーブルを使用します。

もう 1 つのオプションとして、クロッキングを提供するモデム エリミネータを使用し、接続の両端で DTE ケーブルを使用する方法があります。この方法はルータ間接続、ルータおよびホスト間の接続、ルータおよびコントローラ間の接続で機能します。STUN インターフェイス上の nonreturn to zero (NRZ) または nonreturn to zero inverted (NRZI) エンコードは、エンドデバイスのエンコードと一致している必要があります。ルータではデフォルトで NRZ が使用されます。

確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

トラブルシューティング

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

関連情報

- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)